

地震ハザードマップ

液状化危険度マップ

●液状化危険度マップとは？

東日本大震災では、市内でも液状化が発生し、建物やライフラインに被害が発生しました。ここに示した液状化危険度マップは、市内の詳細な地形図を基に、液状化の発生可能性を評価したものです。なお、液状化のしやすさは、地下水位や地盤を構成する砂の粒の大きさによっても変わるため、おおよその目安としてご覧ください。

東日本大震災時に起きた液状化(布佐)



東日本大震災の地盤被害状況



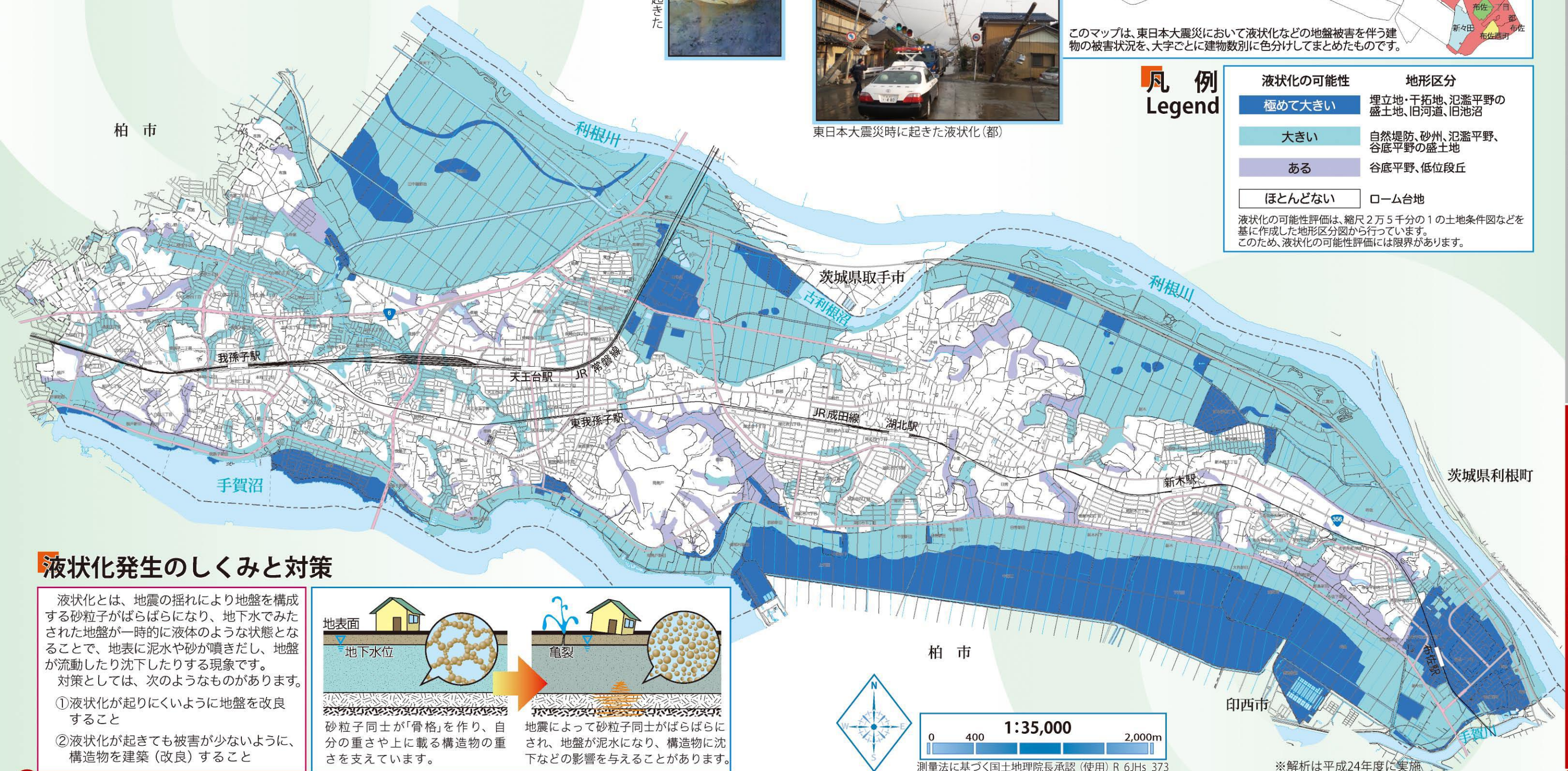
東日本大震災時に起きた液状化(都)

このマップは、東日本大震災において液状化などの地盤被害を伴う建物の被害状況を、大字ごとに建物数別に色分けしてまとめたものです。

凡例 Legend

液状化の可能性	地形区分
極めて大きい	埋立地・干拓地、氾濫平野の盛土地、旧河道、旧池沼
大きい	自然堤防、砂州、氾濫平野、谷底平野の盛土地
ある	谷底平野、低位段丘
ほとんどない	ローム台地

液状化の可能性評価は、縮尺2万5千分の1の土地条件図などを基に作成した地形区分図から行っています。このため、液状化の可能性評価には限界があります。



液状化発生のしくみと対策

液状化とは、地震の揺れにより地盤を構成する砂粒子がばらばらになり、地下水でみたされた地盤が一時的に液体のような状態となることで、地表に泥水や砂が噴きだし、地盤が流動したり沈下したりする現象です。対策としては、次のようなものがあります。

- ①液状化が起りにくいように地盤を改良すること
- ②液状化が起きても被害が少ないように、構造物を建築(改良)すること

